

# 栽培特性に優れためん用小麦「さとのそら」

小麦「農林 61 号」は、様々な用途に使用できることから、実需者から一定の評価を得てきました。しかし「農林 61 号」は土壌伝染性ウイルス病のコムギ縞萎縮病等に抵抗性がなく、品質・収量ともにばらつきが大きくなりがちのため、安定して高品質生産が可能な品種が強く望まれてきました。

そこで、「農林 61 号」に替わる日本めん用小麦品種として、栽培特性に優れた「さとのそら」を奨励品種に採用しました。

## ● コムギ縞萎縮病抵抗性を持ち、安定した生育が確保できます。 ●

「さとのそら」はコムギ縞萎縮病に抵抗性を有しているため、「農林 61 号」が黄化・萎縮してしまうような土壤中のウイルス密度の高いほ場でも安定して生育量を確保できます。



写真1 コムギ縞萎縮病発生ほ場における生育状況 (左)「さとのそら」(右)「農林 61 号」



写真2 茎立ち期前の状況 (左)「さとのそら」(右)「農林 61 号」

## ● 短稈で倒れにくく、収量性に優れます。 ●

「さとのそら」は、「農林 61 号」に比べて稈長が 10 cm 程度短いので、耐倒伏性に優れます。また、穂数が多く千粒重も重いため、やや多収です。

子実の外観品質は「農林 61 号」に比べ、同等～やや優れます。灰分は低くなる傾向があるため、農産物検査等級や品質ランク区分の向上が期待できます。

## ● 茎立ちが遅く凍霜害を受けにくい、早期収穫が可能な早生小麦。 ●

「さとのそら」は播性程度が で、冬期の生育速度が緩やかで茎立ちが遅いため、凍霜害(幼穂凍死)を受けにくいという優れた特徴があります。

一方、「農林 61 号」に比べて、出穂期は 1～4 日、成熟期は 2～5 日早いため、より早く収穫することが可能です。穂発芽等による品質低下の危険性を下げることができます。



写真3 成熟期の状況 (左)「さとのそら」(右)「農林 61 号」